

令和3年度 河内長野市地域福祉推進協議会 会議録(要旨)

■日時・出席者等

日 時：令和3年11月30日(火)15:00～16:30

場 所：河内長野市役所8階 802会議室

出席者：委員 久 隆浩（近畿大学教授）
青木 淳英（大阪千代田短期大学教授）
溝端 秀幸（河内長野市社会福祉協議会会長）
辻野 晶子（河内長野市民生委員児童委員協議会会長）
西村 道夫（NPO法人はぴえる理事長）
御前 敏一（河内長野市身体障害者福社会会長）
山田 昭儀（河内長野市老人クラブ連合会会長）
森川 栄司（河内長野市医師会副会長）
吉田 妙子（河内長野市人権協会副会長）
山本 淑子（河内長野市地域女性団体協議会会長）
水谷 邦子（河内長野・大阪狭山地区保護司会河内長野支部副支部長）
事務局 和田 全功（河内長野市市民保健部長）
中橋 栄一（河内長野市福祉部長）
緒方 博（河内長野市市民保健部高齢福祉課長）
山口 麻子（河内長野市市民保健部高齢福祉課課長補佐）
浦田 尚代（河内長野市市民保健部高齢福祉課地域福祉係長）
舩山 美来（河内長野市市民保健部高齢福祉課）
土橋 崇之（河内長野市社会福祉協議会地域福祉課長）
松下 剛士（河内長野市社会福祉協議会地域福祉課地域福祉係長）

■会議録(要旨)

開 会（司会：高齢福祉課長）

- ・出席数確認（11名）→ 過半数以上で会議成立
- ・和田市民保健部長あいさつ
- ・委員紹介

案 件

1. 第3次地域福祉計画・第2次地域福祉活動計画
令和2年度の取り組み状況及び評価について

<資料1参照>

会長	事務局より説明を。
事務局	資料1に基づき説明。
会長	それでは、評価についてご意見をいただきたい。
委員	計画の目標I「だれもがともにつながり、支え合う地域づくり」の評価がCになっているが、コロナ禍の中でも工夫して取り組みをし、それぞれ効果を出しているのので、B以上の評価ではないかと考える。
会長	Cは悪い評価という訳ではなく、「目標達成に向けて一部成果が表れつつある」という評価基準である。予定していた取り組みがコロナ禍の影響で行えなかったこともあり、Bの「目標達成に向けておおむね順調に進んでいる」という評価基準には至らないと判断したため、今回の目標Iの評価はCとする。
委員	<p>評価については報告のとおりで良い。</p> <p>障害者差別解消法に基づいて取り組みをするという目標があると思うが、今年は東京パラリンピックが開催されたことにより、取り組みについて知ってもらう機会があったと考える。河内長野市内にはコロナ禍の中であっても障害者の方が参加できる活動を行っている団体があるので、そのような活動を評価に取り入れてみてはどうかと考える。</p> <p>また、聴覚障害の方が参加することを踏まえ、イベント等を開催する際は手話講師や要約筆談の手配をしてほしいという依頼があると思う。コロナ禍のため、そのようなイベント等の開催自体が少ないとは思いますが、聴覚障害の方向けの手配等を行った実績があるならば、評価していただきたい。</p> <p>IT技術の利用については、活動内容を録画して動画配信をした団体があり、視聴者から好評を得ている。今後はコロナ禍の中でも最新のIT技術・設備を普及させる取り組みを進めていただきたい。河内長野市内の例でいうと、市民交流センターではWi-Fiが全館利用できないので、公共施設のWi-Fi整備を進めるなど。</p>
会長	今後はWi-Fiやパソコン等IT技術の利用は、生活を支える大切なものであるという意識が高まる可能性がある。必要としている方に支援が出来るような体制を今年度以降整えていただきたい。
会長	コロナ禍の影響により、通常時より生活に困窮する方が増えているように思う。なかには若年層の方もいらっしゃると思うが、昨年はどうような状況であったのか。また、そのような方々に対してどのような支援ができたのか、教えていただきたい。
事務局	昨年度の状況を各支援機関に確認したところ、生活困窮に関する相談件数はコロナ禍の影響で顕著に増えたというわけではなく、徐々に増えているという状況であった。しかし今年度に入り、相談支援員から生活困窮に関する相談件数が増えていると報告があることから、コロナ禍の影響が表れるまでに時間差が生じているのではないかと考えている。
事務局	生活保護制度の受給世帯は増えていない。なぜ増えていないのか調査した結果、

	国が充実させた住居確保給付金等の各支援金の制度を利用していることが判明した。
会長	昨年度から現在までの半年ほどは、今までの個人的な貯え等と国の支援等を利用して生活を継続させた方が多かったが、今後は生活困窮に関する相談件数が増える可能性が高いので、引き続き支援をしていただきたい。 また、今まで支援の対象とならなかった世帯からの相談も今後増えていくとなると、河内長野市内の全世帯的な問題となる可能性もあるため、本協議会としては状況を注視していきたい。
会長	第3次地域福祉計画・第2次地域福祉活動計画の令和2年度の取り組み状況及び評価結果については事務局からの報告内容のとおりとし、本協議会としては、コロナ禍の中でも様々な取り組みができたことを高く評価する。 また、今後の生活困窮に関する相談支援や、新たなコロナ禍での対応については、十分注意をしながら引き続き進めていただきたい。

2. 第4次地域福祉計画・第3次地域福祉活動計画（案）について

＜資料2＞・＜資料3＞参照

会長	事務局より説明を。
事務局	資料2に基づき説明
会長	それでは、計画についてご意見をいただきたい。
委員	河内長野市が福祉政策について積極的に取り組んでいることが分かる計画内容がほしいところであるが、説明いただいた計画内容では分かりづらい。例えば、河内長野市が開催する本協議会やその他イベントで手話講師や要約筆記の方を配置するなどすれば、河内長野市が福祉政策に取り組んでいることを市民により理解してもらえるのではないかと考える。 また、LGBT問題への取り組みが河内長野市で行われているかどうか分かりづらく、相談窓口も見当たらないように感じる。当事者が参加できるような方策を考えていただければ。
会長	市民が抱える課題が多様化しているため、それぞれを解決できるような仕組みづくりが必要である。また、基本目標を達成するための取り組みが数多くあるため、アピールできる取り組みを積極的に行うことで、より分かりやすい活動計画になるのではないかと考える。
会長	「Ⅲ地域を支える基盤づくり」（1）①包括的支援体制の整備のなかの「重層的支援体制構築に向けた多機関協働の仕組みづくり」について具体的に、現在どのような活動しているのか教えていただきたい。
事務局	今年度は検討段階であるため、活動内容について全て決定しているわけではないが、まずは多機関協働の仕組みづくりに取り掛かろうとしている。現時点では多くの機関が様々な視点で支援に取り組んでいることから、支援者同士の意見が合わない問題が出ている。このような問題を解決するための仕組みづくりから考えようとしている。
会長	多機関の支援者同士が顔見知りになるような関係づくりに取り組む必要がある。千葉県柏市「顔がみえる関係づくり会議」を参考にしているかどうか。多機関の支援

	者の中から希望者を募り、年に4回ワークショップを行っている。このワークショップを行うことで、支援者同士は顔見知りとなるとともに、ファシリテーターやコーディネーターの能力が高い支援者が誰なのか確認ができる。河内長野市でも柏市と同じような、多機関の支援者や地域の中で「今何に困っているのか」等をお話あえる場を開くことができれば。
会長	資料3について事務局より説明を
事務局	資料3に基づき説明
会長	計画の評価方法についてご意見をいただきたい。
委員	指標に「自殺者数」を入れてみてはどうか。また、自殺に関する相談窓口等を設置し、「相談件数」も指標に入れてみてはどうか。センシティブな内容であるため、統計等を公表することは難しいと思うが。
会長	現在設定されている参考指標は、各施策がどの程度進められているのか判断しやすいが、河内長野市の現状を知ることができる指標も用意していただければ。
委員	認知症サポーターに認証される講座を1人が2回受講した場合、認知症サポーター数は講座受講人数で計上しているの、2人増えたという見え方になる。実際の人数は何人なのか。
会長	資料1を見る限りは延べ人数しかないの、実際には何人なのかも考えた方がよい。実数は把握できているのか。
事務局	実数の把握は難しくなっている。
会長	実数の把握が難しいとは思いますが、実数も踏まえた上で評価を考えていただきたい。
委員	参考指標の「小学校区ごとの協議体設置数」と「相談支援包括化推進員の配置」は数値化し、分析するのが難しいと思うが、プロセスが評価を行う際に非常に大切になると考えるため、ぜひ指標に入れていただきたい。
委員	5年計画の中で、最終の5年目で全体を評価すると、実態はどうだったのか見えにくい。1年ずつ積み上げていき、途中の評価が「B」「C」「D」となったとしても、5年後の計画最終年では達成できたと思われる評価にしてみてもどうか。また、福祉委員等で「地域で顔の見える会議はあったか」など地域の活動をふりかえる機会を作ってみてはどうか。これをすることで、施策展開が実質どの程度浸透しているのか見えてくると思う。
会長	計画の大きな特徴は小学校区ごとに地域福祉活動目標をたてたことである。この目標に対して地域と共に取り組むための仕組みづくりに関する意見であると思うので、今後社会福祉協議会と共にさらに熟考させていければ。
委員	本協議会の委員のような計画に関わっている当事者だけでなく、地域の方々が計画に対してどう考えているのか、判断できるような評価も用意した方がよいのではないかと。
会長	本協議会と地域が対話できるような形で計画を進められればと考えている。
委員	地域によって評価も全く変わってくると思う。河内長野市内全域の結果で評価するのか、地域ごとの結果で評価するのか、現段階でどのように考えているのかお聞きしたい。
会長	地域によって評価に差があった場合は、どのように評価するのか考慮するべきで

	ある。また、他地域と自身の地域の計画への取り組み具合がどれくらい違うのか比較でき、かつ他地域の取り組み内容で良いものを参考にできるような仕組みづくりを考えることも必要であると考えている。
委員	SDGsの開発目標と、本計画の目標が関連する部分があると思うので、本計画の中にSDGsの視点を取り入れていただければ。
事務局	本計画ではSDGsの17の目標のうち、目標1・3・5・11・16・17の達成に向けた取り組みを推進しているとしているので、ご理解をいただければ。
会長	SDGsの169のターゲットがどの程度達成できているのか、確認するような指標があると良いかもしれない。

3. その他（意見交換等）

委員	河内長野市人権協会は、約1年ぶりに人権を考える市民の集いを開催した。12月3日・4日に人権平和のポスター展を市民交流センターで開催するのでご来場いただきたい。
委員	河内長野市地域女性団体協議会は、約1年ぶりにハイキングを開催した。来年1月には音楽コンサートを開催予定である。また、12月から子どもサロンを開催しているが、人数等の開催基準が不明確であると感じる。
委員	福祉の様々なサポートが、犯罪防止につながることをご理解いただきたい。
委員	社会福祉協議会は今年4月に事務所を移転させた。地域の方が自由に使えるスペースもあるので、地域活動に利用していただきたい。また、実際に福祉活動を行う専門職員が不足しているため、人材育成をどのように行っていくかが今後の課題である。
委員	民生委員・児童委員のイベントがコロナ禍のためあまり開催できなかったが、社会福祉協議会の事務所が移転し、会議スペース等も新しくなったので、それを利用したケアカウンセラーの交流会や心配ごと相談・研修会等の開催を計画している。
委員	河内長野市老人クラブ連合会は、コロナ禍の中で友愛訪問を積極的に取り組んだ。令和2年度の友愛訪問の実績は、参加人数が延べ人数で約9万2千人、訪問回数は延べ回数で約3万8千回であった。また、今年9月20日を「社会奉仕の日」とし、905名が河内長野市内各地で清掃活動を行った。来年2月にボッチャの講習会、3月に春の集いやゴルフコンペ・詐欺防止の街頭キャンペーンを開催する予定である。
委員	NPO法人はびえるでは、るーぷらぎでの業務で得た技能等を利用し各事業を実施している。IT・ICTの普及を目的とした活動にも着手し、SDGsについて勉強ができる講座等も行っている。今後必要がある際にはお声掛けいただければ。
副会長	計画を作成しただけで終わらないようするため、ワークショップ等に参加し、地域の方々が目標に対してどのように取り組みをしているのか把握し、一緒に考えていきたい。
会長	様々な団体の情報を共有できたと思う。今回作成した地域福祉計画の中に「新しい生活様式に対応した」という言葉が複数回でてきたことを踏まえ、リモート等

	の最新通信技術を利用して、講演会等が聞けるような機会の設定や、新しい意見聴取方法の仕組みづくりを進めていただければ。
--	--

- ・事務局から事務連絡（会議録の公表のお知らせと文面校正のお願い等。）

閉 会

(終)